

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590200455		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター長岡中島		
所在地	新潟県長岡市中島3丁目6番28号		
自己評価作成日	令和4年4月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=1590200455-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県介護福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2-2-2		
訪問調査日	令和4年5月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・2012年に開所し、今年で開設10年を無事に迎える事が出来ました。近隣には町内会長様、民生委員様、またグループホームの裏手にコミュニティーセンター様があり、地域と繋がりがしやすい場所に位置しております。地域の皆様の協力、ご理解があるからこそ10年間、安心してサービス提供を継続する事が出来ております。
例年であれば町内のお祭りなどで弊社敷地内で子供神輿を披露して頂いたり、地域で開催しているお茶の間サロンへの参加など、お客様と地域の方との接する機会を頂いておりました。感染症予防の為、ここ2年間は実現が出来ておりませんが、外へ出た際などに気さくにお声を掛けて頂いたり、地域の方々が一緒に暮らして行くという気持ちを持って下さっている事がとても伝わる環境です。

・施設は2階建てで18名の(2ユニット)ご利用者が共同生活を送っておられます。和室やテラス、畑等があり、和と木目を意識ご利用者様がくつろげる空間で明るく感じられる雰囲気となっております。家庭的な雰囲気を大切に、ご利用者様が「できるごとく」を尊重し、食事の準備、片付け、洗濯などを一緒に行っていたり、日常生活にある雰囲気やその場面を大切にしております。

・コロナ禍という事で外出の機会がなかなか取れない為、室内での行事を増やし活性化した生活を送る事で認知症の進行の予防だけではなく楽しみを持って生活を送って頂いております。「穏やかに過ごせる居場所を作り、笑顔で共に生活します」をホーム理念に掲げご利用者様お一人おひとりの思いや気持ちに寄り添い安心して暮らしていただけるよう職員一丸となって取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○利用者の居場所づくりを支えるチーム力
開設11年目を迎えた事業所は「穏やかに過ごせる居場所作り、笑顔で共に生活する」をサービス方針に掲げ取り組んでいる。事業所の暮らしは食事を終えたらそれぞれの自室に戻り、ベッドの上で横になる人、テレビを見る人、趣味の編み物をする人など思い思いの時間を過ごし、お茶の時間になればリビングに集ってお喋りを楽しみ、職員と一緒に体操や時々の催し活動を楽しむという、自宅とお隣さんという小さな社会が造られている。現在、コロナ禍で地域との交流が難しい現状であるが、敷地内の散歩では住民から声を掛けてもらい、花壇作りでは作業を見守ってもらうなど地域の一人としての暮らしがある新たな居場所となっている。職員は利用者を人生の先輩として一人ひとりの思いや意向に沿った支援が行われるよう努めている。日頃より管理者を中心に職員同士何でも言い合える関係ができており、ホーム会議や申し送り(2回/日)のほか、ケアや業務に関して日々職員全員で気づきを話し合っており、意見・提案をケアや運営に反映させるなど、声を掛け合い・協力し合うことにより良好なチームワークが機能している。こうした風通しの良い職場環境がチーム力を生み出し、地域と共にある利用者の居場所を作り上げていると思われる。

○利用者の安心な生活を支える医療連携・協力体制
訪問看護ステーションによる訪問が週1回あり利用者の健康管理が行われ、24時間いつでも連絡・相談ができる体制で緊急時の訪問対応も可能である。また、提携医との連携・協力体制も整備されており、往診診療や利用者の急変に伴う救急搬送先についても報告・指示を受けることで、速やかに医療へ繋がれる体制が整っている。事業所は看取り支援を行っていないため契約時丁寧に説明しているが、「ここで最後まで生活していきたい」という本人・家族の意向に添えるため、看護・医師と連携を図りながら、できる限り住み慣れた居場所での生活を支えたケースもある。職員は利用者の支援者としてその人が望む生活を尊重し、医療連携・協力体制の下、利用者の望む暮らしに向け柔軟に取り組んでいる。

○食の楽しみへの支援
毎日の食事はフードサービスから届き栄養バランスの取れた献立で、ご飯と味噌汁は事業所で調理しているが、事業所畑で育てた野菜と一緒に収穫しアレンジして食卓にのせたり、利用者の好みを聞きながらアイデア料理やリクエスト料理の日や設けて食事が楽しめるよう取り組んでいる。また、利用者個々に現在の健康状態を考えながら、より良い食事をより良い形態で美味しく安全に食べられるよう工夫している。利用者はその人のできることに応じて食材の下ごしらえや盛り付け、後片付けを担うなど、職員は利用者の気持ちを尊重しながら利用者個々に持っている力を生かした暮らしの支援に取り組んでおり、食事は利用者にとって楽しい時間となっている。